

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3270200110		
法人名	社会福祉法人せんだん会		
事業所名	グループホームかがやきの園		
所在地	島根県安来市安来町960-1		
自己評価作成日	平成25年10月11日	評価結果市町村受理日	平成25年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	x.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=327
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成25年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1) 家族とのつながりを大切に、家族と共に利用者の生活を支援する 2) 暮らしの中に快い音楽を積極的に取り入れ、心身の健康につなげる 3) 五感で季節を感じて頂ける関わりをする 4) 利用者の「できること」や「やりたいこと」に眼向け、自分の力を活かして生活をして頂けるよう支援する 5) 趣味活動の充実

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎年自己評価を行い専門的な知識の習得、技術の向上に積極的に取り組んでいる。接遇、非常災害時の対応など多項目のテーマを決めて年間研修計画を立て、それに基づいて学習し、お互いの気づきを伝え合いケアに反映させたり、認知症ケア研修で学んだ「利用者を尊重し自己決定しやすい言葉かけ」ができるようロールプレイを繰り返し行いケアに繋げている。ボランティアの協力を得て利用者が好きなことをしながら持っている力を活かし、楽しみながら生甲斐のある生活ができるよう支援している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設内研修や担当者会議、朝礼などにおいて職員一人ひとりが理念について考え、理念を具体化することで、日々の関わりにつなげている。	職員が理念を理解し実践できているか、アンケートを行い、結果について職員会で話し合い、絶えず意識してより良いケアに繋がられるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣に散歩や買い物に出かけるなどをして、日常的に地域の方とのつながりを持って頂いている。地域のボランティア、中学生や保育園児の方々との交流も継続的に行い、顔見知りの関係ができています。	保育園児やボランティアとの交流や、年2回スーパーで利用者作品展を行ったり「かがやき新聞」を配布し、地域の人との関係づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護者の会や地域ケア会議などに積極的に参加をし、認知症ケアの専門職としての実践経験をサービスの推進に還元するよう努めている。また、人材育成の貢献として、実習生の受入れも多に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催では、日常の報告や情報交換にとどまらず、外部の方の目を通しての率直な意見を頂き、次のサービスに活かしている。	事業所の取り組みを詳細に伝えている。防災訓練や終末期ケアについて意見交換したりアドバイスを貰っている。家族からの忌憚のない質問、思いなどを聞きケアに反映させるよう検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修や支援会議などに出席して、地域の高齢者サービスの課題を共有し、事業所の現状や取り組みを伝え、共に協力体制を築いて連携を深めている。	研修情報を貰ったり、運営推進会議、地域ケア会議で情報交換をし、地域の高齢者サービスについての課題に共に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	権利擁護推進の取り組みを継続的に行い、利用者一人ひとりを尊重したケアを実践している。言葉かけによる行動規制もないよう「でしょうか?」と、疑問形の言葉かけを心がけ、職員全体で取り組んでいる。	言葉の拘束による行動制限をしないよう日々心がけている。身体拘束、接遇、権利擁護などの研修を行い全職員が理解を深められるよう取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	潜在する恐れのある、「不適切な言葉かけによるケア」について、職員全員で話し合う機会を持っている。意識を高めることで信念を持ち、職員同士が注意しあい徹底して排除する体制を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員共に施設外研修で学ぶ機会を持ち、研修後、職場内研修へとつなげ、共に考え、日常の利用者サービスに活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前に、ゆっくりと施設を見学して頂き、重要事項の説明を行った上で、質問や相談を受けている。また、事業所の方針や退居を含めた対応可能な範囲について理解を頂いた上で契約に至っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	暮らしの要望は各職員が日常の関わりの中で細目に聴くようにし、毎月の担当者会で実現に繋げている。ご家族の要望や意見は訪問の際や運営推進会議などで伺い運営に反映させている。	利用料は毎月持参して貰い、座ってゆっくりと話を聴くよう努めている。どんな要望でも大切にし、担当者会で話し合い反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や、ミーティングにおいて、日々の利用者の状況に添った話し合いを行っている。毎月1回の担当者会議や職員会では職員から議案をあげてもらい、管理者も共に話し合いをしている。	会議や、日々の業務の中で気づきを聞くよう心がけている。出された意見はミーティングや担当者会で検討し、業務の流れを見直しゆっくりと利用者に関わる時間を持つなどサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度初めに職員から、自己目標をあげてもらい、それを土台に面談を行っている。面談の際は、自己目標実現のための職場環境や必要な支援などについて、職員と共に話し、意欲や自信につなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	仕事内容や経験、個々の職員の要望などに配慮し、法人内、外の研修への参加をすすめている。研修後は、施設内報告会を行い、全職員が参加し共に学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内や同法人の他グループホームの職員とは、継続的に情報交換を行い他事業所のサービスを学び改善につなげている。研修や会議で同業者との交流ができるよう、機会があれば、参加をすすめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に居宅を訪問したり、事業所に見学に来て頂いたりして、ご本人の「望む暮らし」や現状における「不安」などをじっくりと聴き、利用に向けての信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前にご家族に何度か会い、ご本人に対するご家族の「思い」や介護の状況・事業所に望むことなどを丁寧に聞き運営方針や事業所としてどのような対応が可能であるかなどを伝え信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の自宅訪問をした際や面会などにおいて、ご本人、ご家族の思い、困り事などを率直に伺い、その段階での心身の状況をできる限り把握し、まず必要と思われる支援から始めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は、日頃身体を労わりあったり、散歩や遠足に一緒に出かけ季節の移ろいを語り合ったりなど共に暮らしを楽しんでいる。料理の仕方、暮らしの知恵など若い職員が利用者に教えて頂く場面も多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	それぞれの利用者のご家族の関係に配慮しながら、遠足やまつりなどの行事への参加を依頼したり、日常の買い物や受診の際はご家族の都合がつけば同行して頂いたりなど、理解を求め協力を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の入所施設に職員と共に出かけて頂いたり、生まれ育った地域に他利用者や職員と共にドライブしたり、また、姉妹に日常的に電話をされるなど馴染みの方や地域との関係を継続されるよう支援している。	法人内の事業所を利用している馴染みの人と行き来したり、希望の場所に出かけたり、近くのレストランで職員や家族とティータイムを過ごし新しい関係づくりにも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の言い合いなど、日常のトラブルが生じた場合、その場の雰囲気や和らげる関わりや言葉かけができるよう努めている。言葉数が少ない方には、利用者間の橋渡しの役割になれるよう関わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に変わられた利用者を職員と共に訪ねたり、ご家族と共に当事業所に遊びに来られたり、交流が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の思いや意向などを積極的に聞き、実現できるよう共に話し合いすすめている。思いを表現することが難しい方には、表現できるきっかけ作りをし、少しでも思いを引き出せるよう努めている。	意向をくみとれる声かけを工夫し思いを把握している。思いをくみとることができた事例を出し合い職員全員で共有してケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に生活歴や馴染みの暮らし方などを伺い、利用後は日常生活を共に過ごす中で仕草やつぶやき、語りなどから暮らしのこだわりや習慣などを知り、一人ひとりのケアにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の能力は日々の体調や心情などにより変化がある。環境に配慮し、都度、「できること」と「できなくなりつつあること」を見極めながら、その時必要な支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族が気持ち良く、安心できる介護計画になるよう心掛け、提案し、丁寧に説明させて頂いている。ご意見や要望を柔軟に反映した介護計画をめざし、経過の報告もさせて頂いている。	担当者が立案し担当者会議で話し合い、ケアマネージャーが作成している。利用者、家族の思いや言葉を記録し、必要に応じて家族を交えて検討し見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご本人のつぶやきや体調の変化などを細目に記録し、適時にカンファレンスを行い介護計画につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の都合がつかない通院の介助や遠方のご家族の宿泊などご家族の意向に配慮して提案支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園や図書館、訪問理容、訪問美容員、レストラン、出前、安来節ボランティア、路線バスなど、多様な地域資源を活用し、理解、協力のもと、生活をたのしんで頂く支援が実現できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医に継続して受診している利用者もある。また、毎月、1回の往診を受け、継続して主治医との協力体制ができており、日々の体調変化により都度連絡・相談をし指示を受け対応している。	家族の協力を得てこれまでのかかりつけ医を受診している。状況に応じて受診支援したり毎月1回の往診もある。体調変化がある場合は、家族、主治医とその都度相談しながら対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所内のデイに看護職員がおり、日々の体調変化や排泄状況などの記録と共に、毎日、利用者の顔を見て体調確認をされている。急な体調不良があった時は報告、相談をし、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、ご家族と共に同行し、体調や日常生活の状況などの情報提供を速やかに行っている。回復期には、退院に向け、ご家族や主治医、地域連携室と相談連携し、受入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向け、緊急時対応の研修を行うなど、職員間の話し合いを重ねている。また、運営推進会議などで、ご家族の意向を伺い事業所としての対応について伝え理解を頂いている。実際、重度化した経験もあり、主治医、ご家族と細目に相談し対応した。	重度化した利用者を家族、主治医の協力を得て対応した例がある。「ここで最期を迎えたい」との希望もあり、今後も関係者と話し合いをしながら意向に沿った支援ができるよう検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修を計画的に行い、緊急時対応などを全職員が学び、身につけている。新入職員は、個別に係長などが指導する体制を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定を含めた避難訓練を定期的に行い訓練結果をもとにマニュアルを見直し、毎月初めに職員で読み合わせをしている。緊急連絡網の訓練、災害時の備蓄品・設備の点検も定期的に行っている。	事前に消防署から指導を受け地震災害を想定した訓練を行った。スプリンクラーが作動した時止める手順や、ドアに所在確認マークをつけるなど具体的な災害対策に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の個室に用事がある場合は、ご本人に声をかけ了解を頂いてから入室している。また自室で休息されるなど、くつろぎの時間をゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。	利用者を尊重し、自己決定しやすい言葉かけが大切であることを常に意識し対応している。権利擁護の研修や言葉かけのロールプレイを行い、学習しながら取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	難聴の方、思いを言葉で表現することが難しい方など利用者の状況に合わせ、表現されるきっかけづくりをしている。日常の些細な事も、職員の押し付けにならないよう、自ら決めて頂く場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の予定はあるが、利用者の要望や体調、心情等により、柔軟に対応している。天候の良い日などは、ご家族と散歩にでられたり、寒い日はゆっくり朝寝されたり、など個々のペースを尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々着る服はご自分で選ばれている。「色合いがよくお似合いですね」など、おしゃれ心を持ち続けて頂けるような言葉をかけている。好みの色柄の服を誕生日に贈り、おしゃれをたのしんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	台所では毎日の汁作りや洗い物などを、ホールでは皆でにぎやかに、ごぼうそぎや野菜の皮むきなどを、個々の方の状況に応じ依頼している。近くの食堂に出かけ、外食の雰囲気をつたのしんで頂くこともある。	盛り付けや後片づけなど一人ひとりの力を活かしている。職員も共に食卓を囲み、食材の話や、思い出話などしながら家庭的な雰囲気のある食事場面となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常の摂取量を把握し、食が向かない時は、好みの品を添えたり、食べやすく工夫したりなど栄養バランスに配慮している。水分については、多様な飲み物を用意して選んで頂くなど、細目に促進している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアについて職員が学ぶ機会を持ち、個々の口腔状況や能力に応じたケアを行っている。同事業所内の歯科衛生士が必要に応じ入り、相談指導をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄状況や習慣を各職員が把握し、排泄介助の言葉かけはご本人に快く応じて頂けるよう、またご本人の意欲や能力を活かした介助ができるよう努めている。	状況に合わせた声かけや、使用後のパットをスムーズに始末できるよう「ここに入れましょう」とプレートを置くなど工夫し、本人に合わせた排泄の自立支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向の利用者が多いため、水分はもとより、繊維質の多い食材(根菜・糸寒天入りの汁物・玄米入りごはんなど)を多く取り入れるなど食事内容を工夫している。たのしみながらの運動も促進している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居当初、入浴を嫌がられていた利用者もあったが、言葉かけやすめるタイミングなどでスムーズに応じられるようになってい。ゆず湯や菖蒲湯など季節の香りでよいたのしんで頂けるよう工夫もしている。	午後一人づつゆっくり入浴して貰い、基本は週3回の入浴支援をしている。入浴が楽しめるようゆず湯など工夫している。入浴を嫌がられる人には、タイミングや言葉かけを工夫し対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝に向けて生活リズムが安定するよう配慮している。夜間寝付けない時には、室温や照度を確認し、掻痒感、心配事などがなければ聞いてみるなど、安心して眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容について、いつでも確認できるようファイリングしている。処方の変更があった場合は、利用者の状態変化がないか注意を払い連携を図っている。服薬介助の方法はマニュアルをつくり確認あっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意料理や洗濯ものたたみ、洗い物などそれぞれの方の経験や知恵を自然に発揮して頂く機会を多くつくっている。ちぎり絵や園芸、安来節、カラオケなど趣味のたのしみについても支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日頃から、ホームセンターや道の駅などに買い物に出かけ、地域のにぎやかな雰囲気の中でも過ごして頂いている。近くのレストランに少人数ででかけ気軽なティータイムを過ごされたり、遠足でご家族と共にとっとり花回廊に出かけて頂くこともあった。	希望に応じて日用品など買い物に出かけたり、郵便局に手紙を出しに行ったりしている。天気の良い日はお茶やお菓子を持って外に出かけるなどして支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と他利用者の誕生日プレゼントを買いにでかけ、予算にあわせて相談しながら選び、共に支払いをするなどをして頂いている。あわせて、自分の日用品なども、選んで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に携帯電話を持ち、自由に遠方の姉妹と会話をされている方がいる。孫さんや息子さんからの便りを大切にされている方には、ご本人の近況がわかる園の便りをお送りしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じ、ちぎり絵や散歩で摘んだ草花などを飾ったりしている。ホールの随所に心地の良い椅子を置き利用者同士のくつろぎ空間を作っている。自室の障子は好みで利用者自ら開け閉めされている。居室の温度は、都度、ご本人に確認し調整している。	利用者手作りのちぎり絵や布で作った干し柿など季節を感じることでできる作品などを飾っている。畳に炬燵を置いたり、つい立てで仕切り、テーブルや椅子を置きゆっくり過ごせる場づくりもしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	馴染みの利用者同士が寄って座られる場所がそれぞれ自然とできている。食後に気の合う方と会話されたり、時には、居室を訪ね、共にくつろがれることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた馴染みの座椅子やタンスなどを持ち込まれ、暮らしやすい配置にご本人と相談しながら設置している。大切な仏壇を持参し入居されている方もいる。	仏壇や大切にしている植木鉢を持ち込んだり、自作の絵や人形を飾りその人らしい環境づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行が不安定な利用者が日常移動される導線に、安定した椅子を置き、つかまりながら安全に移動できるようにしている。洗濯物干しをされる時は、利用者の身体機能に合わせ、安全にできる環境を工夫している。		